



ドクター板東の メデイカルリサーチ Vol.114

～医学会 発展継続 百余年～

<http://pianomed-mr.jp/>

日本の医学や医療は秀逸だ。世界の中でもレベルは高く常に進歩してきた。また、五輪と同様に四年に一度、日本医学会総会が行われてきた。

さきほど「第29日本医学会総会 2015 関西」が京都・大阪・兵庫など6府県で広範囲で開催されたのをご存じだろうか。本号ではこの話題について若干触れたいと思う。

京都国際会議場

第1日目の開会式は、多くの人々を収容できる京都国際会議場で開催された。ここは日本で唯一、また世界的にも希少な国連方式を採用した国際会議場として広く知られる。

従来、京都で行われる大規模の医学会はここが会場であった。また、国際会議が京都で開催されたとのテレビ報道では、必ず豪華な雰囲気の大会議室が放映されてきている。

大会議室は2000平方mの広さで、4F吹き抜けの広大な台形の空間は



図1

開放感と品位を備えたものだ。内外の政治経済会議をはじめとして、あらゆるイベントに活用されてきた。

私は前もってスケジュールを確認し、朝一番に入場が必要と判断。そこで、当日は未明に起床して駆けつけた。私と同様に来場した人も少なくなく、大会議室の後ろ半分から順次着席し、短時間で一杯に。開会の直前には来賓の方々が前方に着席され、開会式が開始された(図1)。

最初には、お洒落な企画が。有名な指揮者・佐渡裕氏とスーパーキッズオーケ

ストラによるオーブニングコンサートだ。阪神淡路大震災をきっかけに結成された子供たちの演奏は素晴らしい。これから研鑽を積み、将来国際的な演奏家になってほしい。

引き続き、私がどうしても拝聴したかったレクチャーが。ノーベル賞を受賞された京都大学の山中伸弥教授のご講演である。

先生のお話により、近年は京都大学iPS細胞研究所の各研究班で目覚ましい業績が上がっていることがわかった。この技術は世界の医学のために活用できる制

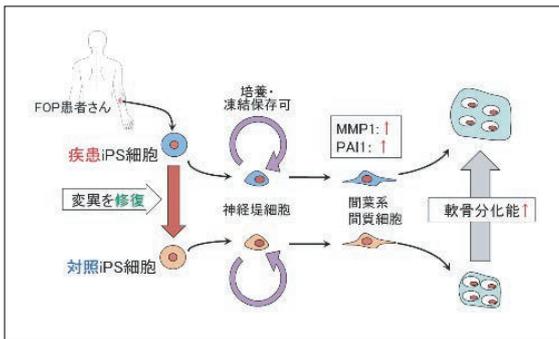


図2



図3

度となつている。今後とも、世界をリードするiPS細胞研究のさらなる発展を期待したい。

iPS研究のトピックス

私はiPS研究所から定期的にCiRA Newsletterを受け取っている。最新号から話題を紹介させて頂く。

特別な骨の病気(FOP、進行性骨化性繊維異形成症)で、対照細胞を用いた比較が可能に(図2)。原因を検討し、将来には効率的で有効な創薬につながると可能性がある。

山中教授はインターネット

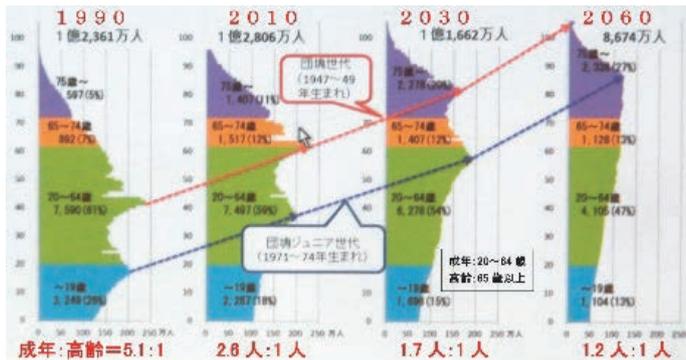


図4

は、「わが国の医学研究の方向性」をテーマとしてご講演された。その中で、社会のニーズに応える研究推進には、「産官学」に「民」を加えたシステムの重要性を提言することに。

さらに、米国のオバマ大統領の話にも。今年1月、大統領は一般教書演説の中で「Precision Medicine Initiative」を表明。ゲノム研究などを推進することで、個別化医療の研究や実践などが想定されている。100万人のボランティアを募り、取り組むという。

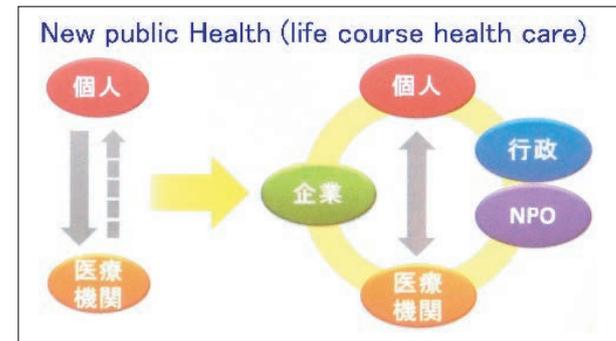


図5

日本の未来は？

開会式では他に二つ重要な報告事項があるので、簡単に触れたい。

一つは、皇太子徳仁親王殿下の臨席の下で開催されたことである。私は冬期国体に選手や監督として関わっており、今までも何度か近くでお目にかかれたことがある。

二つめは、同総会の会頭であり元京都大学総長も務められた井村裕夫氏の会頭



図6



図7

氏は医療の未来を展望するため、次の項目について概説された。

- ① 生命科学・医学の進歩
- ② 情報技術の進歩
- ③ 脳研究・人工知能
- ④ 人口増加と資源の不足
- ⑤ 経済産業のグローバル化
- ⑥ 地球環境問題

この中で、④人口問題について参考資料図4をご覧いただきたい。我が国で高齢者の割合が急増しており、驚くべきは成人（20～64歳）と高齢者（65歳以上）の

比率だ。あなたは思うだろうか？

また、⑤医療と産業の関わりについて、参考資料図5を示す。従来は個人と医療機関との関係だったが、今後は複数のファクターが絡む時代へ。すでに大きな転換期が訪れている。

身近な心の変化は？

筆者はプライマリ・ケア医学に関わっており、わかりやすく有用な情報を発信する役割を有する。図6は今後脳科学が進む方向性を示す。心の解明は難しいが、次第に明らかになっていくであろう。

図7は、医療が日常生活と密接に融合する存在を示唆する。我々は遠い将来の目標を認識しておきたい。同時に、毎日地道に続ける行動があるはずだ。つまり、百年先を見ながら、現実の問題に対処していく姿勢が大切となるだろう。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）